

伝統的住宅地域における家庭清掃—美濃市の場合

住居の清掃序に関する基礎的調査研究(その5)

広島女学院大短大 ○畠田 亮子 大谷女子短大 藤本 佳子

目的 伝統的住宅地域における家庭内清掃の実態や清掃に対する意識の分析、検討を通じて、家庭内清掃の変容の要因を明らかにし、その中から、現在の住宅や住生活にふさわしい合理的な清掃方法を見い出そうとするものである。

方法 江戸時代末期から明治期に建造されたとみられる卯建のある町家群を残り美濃市の伝統的住宅を対象に、①住宅の平面図採集、②住戸内観察、③主婦及び家族に対する面接聞き取り調査を行った。調査内容は日常清掃の方法・場所・人・所要時間・時間帯・清掃用具・用具の置き場所等や特別清掃及び清掃についての考え等についてである。調査時期は1987年7月、調査対象家庭は5軒である。

結果 ①現在毎日掃除が行われる場所は店の間、玄関、土間等の表が中心であり、そこでは掃き掃除、水拭きが行われている。②掃除の時間は午前7時頃から10時頃までの大よそ1時間位である。商家が多いためか、こまめに乾のついた時に行われることも多い。③床上用の掃除用具は掃除機、箒、ハタキ、数枚の雑巾で、その置き場所は各家庭で異なる。特に、掃除機置き場は一定していない。④主に掃除をやっている人は家庭間で異なるが、表向は主婦、使用人、奥向は主婦である。⑤特別清掃としては大掃除があるが、現在では年末に掃除機、カラス磨き、天井その他の丁寧拭きが行われている。⑥昭和30年代後半から夏季の畳上げ、床下掃除が行われなくなり、簡略化している。⑦こまめな日常清掃や点検が住宅の維持上必要で、効果のあることを見い出している。